

肝心かなめの
肝臓
のはなし
16

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

原発性胆汁性胆管炎の治療

前月号で、原発性胆汁性胆管炎は女性に多い自己免疫疾患の一つであるということをお話ししました。

原発性胆汁性胆管炎の治療では、ウルソという薬剤（1日6錠、600mg）を服用します。これを服用することにより、胆

道系の酵素 γ （ガンマ）-GTP（図1）、ALP（アルカリホスファターゼ）（図2）の数値は、多くの症例で服用後約半年以内に、速やかに正常となってきます。

ただし、ウルソは半永久的に服用する必要があります。30年以上服用している患者さんも珍しくありませんが、多くの場合、長期間服用しても問題はありません。

自己免疫性肝炎
とも合併

原発性胆汁性胆管炎は、女性に多い自己免疫性肝炎とも合併します。この場合には、ウルソに加えステロイドという薬剤が必要となる場合があります。症状が進行していながら、発見が

遅れ治療が施されなかった場合は肝硬変となり、やがては肝不全に進行し、肝移植の適応となります。

次号では、原発性胆汁性胆管炎患者の約90%が症状を訴える、皮膚掻痒感のメカニズムとその対策についてお話しします。

